

# 農業科（野菜）学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 令和3年12月6日（月）6 限目
- 3 学 級 2 年
- 4 使用教科書 野菜 実教出版
- 5 単 元 名 野菜生産の役割と動向
- 6 単元設定の理由

**生徒観：**本学級は、日頃から落ち着いた態度で授業に取り組むことができ、将来の進路に向けて考えながら学校生活を過ごすことができている生徒が多い。しかし、主体的に学習し、仲間と協働して課題解決に向けて実践しようとする生徒は少ない。そこで、主体的で深い学びが展開しやすく、互いに思考を共有してコミュニケーションが図れる ICT を活用した授業を行い、未来を切り拓く能力を育成するために本単元を設定した。

**教材観：**野菜に関する動向や種類、分類についてイメージすることが困難で、理解がしにくい内容である。野菜を植物としての分類法や利用部位による分類法で分けられるようになれば、共通する栽培管理や病害虫・生理障害を予防することができるようになるため、実践力を養うためにも重要な内容である。

**指導観：**近年、農林水産省は国内野菜農家の国際競争力を強化するために、農家の法人化による経営体の強化や GAP 認証等を推奨している。社会の実情と共に変化する野菜生産の動向を観察し、対応することができる人材を育成するためには、主体的に考え、行動することができる力を養う必要がある。

## 7 単元の目標

- (1) 植物学上の分類が野菜を栽培するさいにどのような役割を果たしているか理解する。
- (2) 野菜消費は、業務加工用が増加し、生産者はどのような対応が求められているか理解する。
- (3) 持続可能な農業を実現させるため、環境に配慮した野菜栽培の技術改革について学習し、行動できる。

## 8 単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
野菜生産の役割と動向について関心を持ち、主体的に学習する態度が身についている。	主な野菜を分類できるようになり、適切な作付け計画や病害虫の予防と防除ができる。	環境保全に配慮して、安全・安心な野菜生産を主体的に実践することができる。	総合的病害虫管理技術やポジティブリスト管理、GAP 認証などを理解している。

## 9 指導と評価計画

第1次 野菜の種類と特徴・・・4 時間

第2次 野菜の消費・・・・・・・・・・3 時間

第1時 野菜の種類と特徴・・・2 時間

第3次 野菜の生産と供給・・・4 時間

第2時 野菜の分類（本時4/4 時間）

第4次 野菜の安全性・・・・・・・・・・3 時間

	【ねらい】・学習活動	評価の観点				評価基準・評価方法
		関	思	技	知	
第1	原産地や来歴、生産と消費の特徴を理解するとともに野菜を植物としての分類法などで分けさせる。				●	植物の可食部位による分類や科による分類に分けることができる。 (行動観察・ワークシート)
第2	食生活の変化や消費ニーズの変化に応じて、野菜の種類や生産方法が変化す	●				これからの食生活やそれに伴う野菜の消費について考えることができる。

次	ることを考えさせる。			(行動観察・ワークシート)
第3次	農業生産全体に占める野菜の重要性について、産出額や作付面積、農家数の推移などを考えさせる。		●	産出額や作付面積に関するデータをもとに考察することができる。 (行動観察・ワークシート)
第4次	安全な野菜生産のために、多くの取り組みがあることを知り、自ら進んで持続可能な農業を実践させる。	●		持続可能な農業を実践するために考え、実践することができる。 (行動観察・ワークシート)

#### 10 本時の指導目標

- 植物の科によって共通する部位を見つけることができ、分類できるようにする。
- 科を分類することにより、病虫害の防除や連作障害を回避できることを理解する。

#### 11 本時の展開

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動時における 具体の評価基準	評価方法
導入 (10分)	○土成農場での実習動画を見て前時の復習をする。 ○本時の目標を理解する。	○実習と座学を関連づけて学習させる。 ○本時の目標を理解させる。		
展開 (35分)	○前回の実習で撮影したトマトの花を電子ワークシートに貼り付ける。	○机間巡視を行い、操作できない生徒を支援する。		
	○撮影したトマトの花を紙媒体のワークシートにスケッチする。	○ワークシートに撮影したトマトの花をスケッチさせる。		
	○ワークシートにスケッチしたものを撮影し、電子ワークシートに張りつける。 ○グループになり、練習問題である動物の食性を分類する。 ○グループになり、ナス科植物とウリ科植物を分類する。	○机間巡視を行い、操作できない生徒を支援する。 ○机間巡視を行い、操作できない生徒を支援する。 ○時間を明示し、分類させる。時間を見ながらヒントを与える。	○野菜を科ごとに分類できるようになる。 【思考・判断・表現】	電子ワークシートの成果物
まとめ (5分)	○植物の科を分類することで、病虫害の防除や連作障害を回避できることをワークシートに記入する。 ○本時の感想を記入する。	○植物を分類することの重要性理解させ、知識の定着を図る。		

